

十勝沖地震から10年 忘れない

応急処置を体験
3千人備え学ぶ

帯広 小学生も参加し訓練



帯広市の宮坂建設工業（宮坂寿文社長）は26日、地域住民が参加する防災訓練を市内の中央公園などで開いた。震度5強の地震発生を想定し、約3千人がけが人への応急処置などを体験、災害への備えを学んだ。

今年で21回目。20

03年9月26日に発生した十勝沖地震後は住民も参加する形で実施している。訓練は2部構成で、1部では同社社員15人が5班に分かれ、市内の河川や建物

の被害状況を確認するパトロールを行った。2部は中央公園で行い、小学生や高校生も参加。三角巾を使った骨折の応急処置や土のうの作り方を学んだ。

また、東日本大震災の揺れなどを再現する地震体験車の試乗やバケツリレーによる消火訓練なども行った。地震体験車に乗った市立啓西小4年の後藤

土のう作りを体験する参加者

（岡坂泰寛）

十勝毎日新聞 2013年(平成25年)9月26日(木曜日)

怖さ体感 防災誓う

宮坂建設工業 住民参加型訓練に2000人

宮坂建設工業（帯広市、宮坂寿文社長）は、十勝沖地震から10年の26日、住民参加型の防災訓練を帯広市中央公園（西4南6）で行った。関係団体や企業、学校などから参加した約2000人が災害の備えを考え

た。同訓練は1993年から実施し、2003年の十勝沖地震を機に地域住民にも

地震体験車で大きな揺れを体験した参加者（26日午前11時5分ごろ）



確認した。同公園では午前11時から土のう積みや消火器操作体

「地域の防災意識を広めるため今後も続けたい」と話（杉原尚勝）

験、地震体験車の体験搭乗などが繰り広げられた。地震体験車で震度7の揺れを味わった啓西小4年の村田温君（9）は「とても怖くて気絶しそうだった」と話し、地震の怖さをかみしめた。同社の高道伸常務は

「その日」に備えシミュレーション

【帯広発】宮坂建設工業(株)（帯広、宮坂寿文社長）は二十六日、同社の全役職員を動員して第二十一回地域住民参加型防災訓練を行った。

午前九時に帯広市近郊と札幌市近郊で震度5強の地震が発生したことを想定し、帯広、札幌の二カ所を実施。帯広市の本社では災害対策本部を設置した。午前十一時から帯広中央公園に本部を移動。発注官庁や協力会社、地元小学生や地域住民など二千八百人が訪れ、消防訓練や地震体験車試乗訓練などを行ったほか、炊き出し訓練としてカレーライス二千食分を用意し、来場者に無料で振る舞った。

「宮坂建設工業」

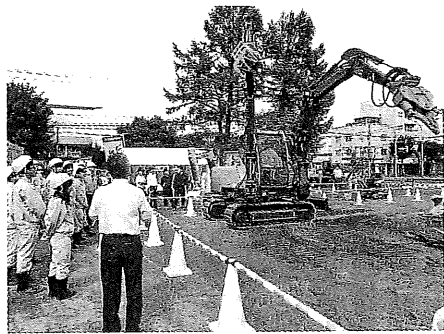
地域住民参加型防災訓練

同社では、大規模災害から地域住民の安全を守るため「災害対応マニュアル」を作成。発注官庁と連携しながら、地域住民の安全確保のため、職員、資材、機材を二十四時間体制で待機させている。

地域住民の防災意識の高揚に努めたことが認められ、一般社団法人全国建設業協会（浅沼健一会長）が顕彰する二十三年度の地域貢献活動功労者表彰を受賞した。

五年から同社単独の防災訓練を行ってきたが、十五年に発生した十勝沖地震を契機に、協力会社や発注官庁、地元商店街などに案内

命を守れ 2800人が体験



重機を使った訓練を見つめる帯広工業高生



テレビ会議システムで本社の災害対策本部と札幌支店を結び連携を確認

とを想定。本社内に宮坂社長を本部長とする災害対策本部を設置し、テレビ会議システムを使って、札幌支店と連絡を取り合った。

午前十一時から近隣の帯広中央公園に本部を移動。土のうづくり体験や防災関連の機器の展示、災害時空中撮影システムの実演、地震体験車の試乗やパケツリレーによる消防訓練などを行った。

会場には、帯広市立啓西小学校の児童や帯広工業高校の生徒、地元商店街や各発注官庁、地域住民など二千八百人が来場。炊き出し訓練ではカレーライス二千食を用意し、来場者に無料で振る舞った。

地震体験車の試乗では、体験者が悲鳴を上げながら振動に耐え、地震の恐ろしさを実感した。

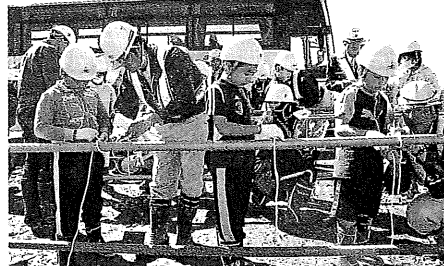
水防訓練では、決壊した堤防を復旧するため、帯広工業高校の生徒も土のうづくりに参加。重機を使った土のう積みや、月の輪工と呼ばれる漏水対策などを行い、住民とともに災害時の迅速な対応に備えた。

縄結びなどに表情真剣

札幌支店 小学生が初参加

【岩見沢発】宮坂建設工業(株)札幌支店（佐々木勝幸支店長）の防災訓練は、同社が施工中の嶮川川築堤工事（札幌開建発注）の現場で行われた。嶮川川沿いの長沼町東七線の会場には役員、協力会社の関係者のほか、札幌開建千歳川河川事務所職員や地元の長沼町立長沼舞鶴小学校の全校児童ら合わせて約百人が集まった。

同支店の防災訓練に小学生を招くのは初めて。訓練は町内に大雨洪水



縄の結び方を教わる長沼舞鶴小学校の児童

「かみくし」「イボ結び」「フナ結び」などの幾通りもの方法を実際に体験。ロープの巻き付け方、結び方に「難しいなあ」と苦労しながら、真剣な表情で挑戦していた。

参加者は土のうづくりにもチャレンジ。児童も実際に防水バッグに砂を詰め、本物の土のうを完成させた。試食コーナーでは、備蓄用の非常食を口に運び満足そうな児童たちだった。

これに先立って、札幌市北区の札幌支店では、震度5強の地震発生を想定し、午前九時に対策室を立ち上げた。帯広本社の対策本部とテレビ回線結び、スムーズな連絡、指示の伝達のシミュレーションを本番さながらに展開した。

住民参加型の 防災訓練実施

宮坂建設工業

【帯広】宮坂建設工業（本社・帯広、宮坂寿文社長）は26日、帯広市中央公園で地域住民に参加を呼び掛けて防災訓練をした。写真。約2500人の市民が参加。土のう作りや消火、緊急資材運搬など体験型の訓練メニューに取り組んだ。2003年に発生した



十勝沖地震をきっかけに毎年実施。21回目の今回は、午前9時に帯広と札幌で震度5強の地震が発

生したと想定した。

帯広開建や陸上自衛隊、帯広市消防本部などが協力。市立啓西小児童や帯広工高と帯広農高の生徒も参加し、東日本大震災やスマトラ島沖地震の揺れを再現した地震体験車に乗るなどして、災害への心構えを養った。また、帯広開建と帯広建管所管の河川や道路、建築現場などをパトロールし、状況を把握して報告する訓練もした。

嶮淵川敷地で 防災訓練実施

宮坂建設工業

【岩見沢】宮坂建設工業札幌支店は9月26日、札幌開建が発注した長沼町の嶮淵川築堤現場周辺堤防敷地で防災訓練に取り組んだ。社員、協力業者、工事関係者ら90人が参加し、災害時に備えた。訓練は、震度5強の地震発生と大雨洪水警報の発令を想定。札幌支店と本社対策本部のテレビ会議、支店と各現場の安全確認後、午前10時から水防訓練に入った。会場で佐々木勝幸支店長は「土のう作りなどを体験し災害時に備えてほしい。機敏な行動を」と呼び掛けた。訓練では縄結びや、決壊対策の木流し工、漏水対策のシート張り工を実践した。舞鶴小の児童15人も参加し、写真。土のう作りに必要なロープ結びの実技を体験した。

